

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果
(公表)

討議年月日: 令和 7年 1月 27日

公表: 令和 7年 2月 1日

事業所名 chameleon

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	0	適切ではあるが、活動によっては手狭に感じる事がある為、公共施設の利用も行っている。	
	2	職員の配置数は適切である	9	0		配置数は適切ではあるが、活動や長期休暇中はもう少し人数が増えた方が余裕があるかと思う。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	3		手すりのみの設置になっている。他に必要があれば、都度検討していく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	4		勤務日数や時間帯によっては、参画のムラがある。出来るだけ多くの職員に情報共有できるように記録はしっかりと取り、だれでも見れるようにしている。各自確認意識を高める。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	0		出来る範囲で業務改善できるよう努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	4		HPに毎年公表している。職員への周知が不十分だったかもしれない。周知をしていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	6	保護者には毎年評価をお願いしている。	必要に応じて第三者の評価を検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9	0		
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	1	モニタリング時に聞き取り、日常で保護者から頂く情報からアセスメントを行うようにしている。	職員間で周知していく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	1		標準化されたものを購入しているが、別の物で評価している。標準化されたものの使用を検討していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	5	勤務日数や時間帯によっては、参画のムラがある。出来るだけ多くの職員に情報共有できるように記録はしっかりと取り、だれでも見れるようにしている。	多くの職員が意見を発信できるよう引き出していく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	0	日頃より精一杯固定化しない様考えてはいるが、情報収集を継続していく。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	2	日頃より事業所の滞在時間を踏まえ、発達に合わせ、活動計画を立てるようにしている。	パートの職員にも周知していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	9	0	その時の子どもの調子や課題に合わせて、子ども達の気持ちを尊重しながらも計画作成を行っている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	4	必ずの打ち合わせは出来ていないが、その日の役割分担表は作成し、共通理解している。	短時間でも情報共有していく。
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	2	必ずの打ち合わせは出来ていないが、気になる事がある場合には随時共有するようにしている。	短時間でも情報共有していく。	
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0	一日の記録に、後から見ても分かりやすいように記入している。		

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9	0		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	8	1		パートの職員にも周知していく。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	0	管理者・児童発達管理責任者が行くようにしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8	1		送迎時等に話を聞くことがあります。日頃の情報共有を継続していく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6	3		医療ケアを必要とする児童は在籍していない医療ケアの子どもは少ない為、利用がある時には対応する。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	3	全員の情報共有はできていないが、所属先へ送迎を行う児童に関しては情報共有をしている。	必要に応じて検討していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	5		対象者がいない。 卒業生はいない
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	4		ほかの児童発達支援職員より研修を受ける事がある。継続していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	6	学童や児童館に交流しに行く事は無いが、地域の公園であった子供たちと一緒に遊ぶ事がある。	公共施設に行った際に、一緒に遊んであそんだりしている。ご協力いただける施設があれば、イベントなど検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	7		参加できるものは参加を検討していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0		日頃の送迎時や連絡帳でご報告するようにしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	5		個別で相談に応じ、関わり方についてご提案している。集団も検討していく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0		契約時に説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	1		適宜こちらから話をふったり、保護者よりご連絡いただいた時に対応するようにしている。継続していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	2		積極的に保護者が参加できるよう、行事を企画するようにしている。周知とともに、気軽に参加できる行事を検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9	0		あまり挙ってこないが、迅速に対応するようにしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	1		月に1回お便りをメールにて出している。SNSでも積極的に日頃の様子などが見えるよう発信している。
	35	個人情報に十分注意している	8	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	1		できるだけ子どもたちが分かりやすい情報提示の仕方をしている。継続していく。

	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	7		地域住民を招待する行事は出来ていないが、こちらが地域の行事には積極的に参加するようにしている。検討していく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8	1		マニュアルの詳細についての周知は誰でも見れるようにはなっているが、把握できていない職員もいるかもしれない。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	0	訓練は実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	0		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	9	0		身体拘束を行っている児童がいない。今後やむを得ず必要になってくる場合には対応する。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	2	意思の指示書には基づいていないが、アレルギーについての情報確認・対応については保護者の指示通りに行っている。	医師からの指示書をいただくか検討していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0		